

建材に飢肥杉使って

日南の協 筑紫野市を訪問、PR 対策

日南市の林業関係団体をつくる飢肥林業振興対策協議会（会長・谷口義幸市長）は、県外自治体に赴いて売り込むなど、飢肥杉の販路拡大に努めている。7月末には福岡県筑紫野市を訪問。公共建築物の木材利用を促進する法律が施行されたのを追い風に、今後も官民一体となって飢肥杉の売り込みを図る考え。

会長代理の倉岡清美副市長を筆頭に、日南地区木材協会

の福岡浩一会長、南那珂森林組合の島田俊光組合長ら8人が筑紫野市へ。県福岡事務所職員、現地の建材店サトウ産業の佐藤広樹社長、飢肥杉住宅を建てている伸建築の長野善伸社長、大工家の鶴田あきら代表とともに市役所を訪問。藤田陽三市長や市の公共工事発注の所管課長らと面談した。

倉岡副市長は「筑紫野市内でも飢肥杉住宅を建て、見学会などを通じて顔の見える家造りを進めてもらっている」などとあいさつ。二酸化炭素排出削減など時代の要請や大径材活用促進に対応する必要などを説明し「今後、公共施設を建築される際の参考にしたい」とPRした。

続いて島田組合長らが主に船材として使われてきた飢肥杉の400年にわたる歴史や特徴、市内での施工例など浸透ぶりを紹介。左官業出身の



飢肥杉PRのため福岡県筑紫野市を訪れ藤田市長（左から4人目）と写真に納まる飢肥林業振興対策協議会の会員ら

藤田市長は「木造住宅は日本人の生活に合っており、国産材の利用促進は意義がある」と理解を示した。

対策協の一行はその後、佐藤社長らと懇親会で意見交換。佐藤社長らは「飢肥杉には愛着があり自信を持って売っている。少しずつでも販路を広げたい」と話した。

翌日は、伸建築の住宅完成見学会に顔を出し、景気づけした。日南市林政課の甲斐健一課長補佐は、今後も公共施設の建て替えや内装木質化の際に飢肥杉を使ってもらえるようPRしたいと話している。

手作りステージ満喫

日南市東郷でくすのき祭り

日南市東郷地区の東郷くすのき祭り（東郷地域協議会主催）は7日、東郷小校庭であった。地区住民が舞台での出し物に出演、手作りで盛り上げた。

各種団体が続々と舞台上がり、民舞やフラダンスなどを披露した。

庄巻は平田区民100人によるよさこいソーラン。来場者は力強い動きにさかんに拍手

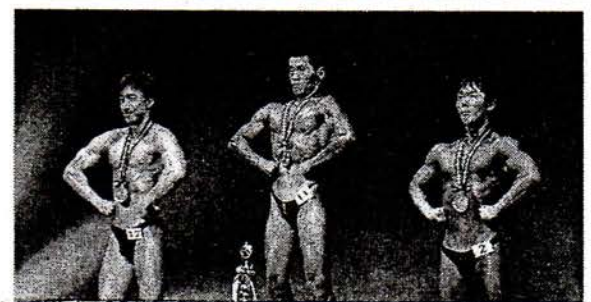


小校庭であった東郷くすのき祭りで、太鼓演奏と踊りを披露する四季の森子

鍛え上げた 肉体美競う

ボディビル東九州大会

第31回ミスター東九州ボディビルディング選手権（県ボ



南郷

ボディビルディング連盟主催）と、その歴代優勝者によるミ